

みらい

唐津赤十字病院広報誌



2015 Vol.08

OCTOBER

第8号

We hope a "Bright Future" 地域の明るい未来を願って



02 【お医者さんに聞きました!】



「がん薬物療法 専門医ってなあに ～適切な抗がん剤治療に向けて～」

04 【トピックス】新病院建設工事進捗報告

05 【活動報告】7月

06 【各科紹介】救急科・放射線技術課

08 【おしらせ】市民公開講座

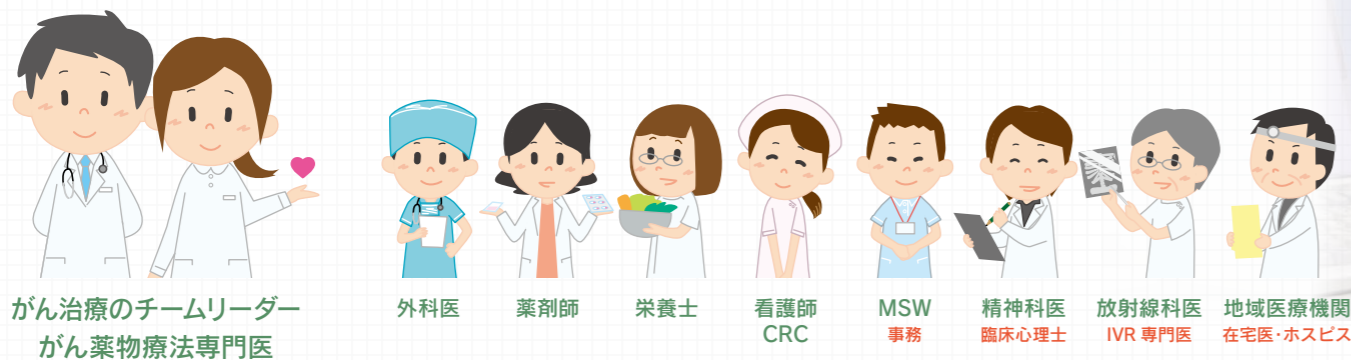
ご自由
お持ち下さい

TAKE FREE

唐津赤十字病院

お医者さんに聞きました!

「がん薬物療法 専門医ってなあに ～適切な抗がん剤治療に向けて～」



がんの治療

がんは長年日本人の死因の第1位であり、今では日本人の2人に1人は一生のうち一度はがんにかかるといわれています。家族や友人ががんになったという話を聞くことも珍しくないと思います。がんの治療は、がんの種類・病気の段階・患者さんの全身状態によって、手術・放射線治療・抗がん剤治療・緩和ケアを組み合わせて行います。定期的な健康診断などにより早期に発見された場合は手術や放射線治療で治癒する可能性があります。進行した状態で見つかった場合や手術後の再発などは、抗がん剤が治療の中心となり、がんによる症状を和らげ、患者さんの生活の質を維持し、予後を改善することに大きな役割を果たしています。

また、緩和ケアについては一般的には終末期の緩和ケアのイメージが強く、敬遠されることも多いのですが、最近ではがんと診断されたときから抗がん剤治療中であっても、がんによるつらいと感じる症状があれば早期に緩和ケアを開始した方がいいことがわかっています。緩和ケアは特別な治療ではなく、痛いときに痛み止めを使うこと、咳が出るときに咳止めを使うこと、不安なときに話を聞くことなどつらい症状を和らげることですべてが緩和ケアです。患

者さんの生活の質を向上させるためには、抗がん剤治療と緩和ケアどちらも重要です。病状に合わせてバランスを取りながら緩和ケア医と相談して治療にあたっています。

抗がん剤治療について

その中でも、最近の抗がん剤治療の進歩はめざましく新しい抗がん剤や分子標的治療薬が次々に登場し、がんの治療成績は向上しています。しかし、抗がん剤治療は100%安全な治療ではなく副作用を伴います。ときに命に係わる重篤な副作用をもたらすこともあり、適切に副作用を管理することが重要です。また、一方で副作用が心配だからと安易に投与量を減量してしまうとその効果を得られないため、専門的な知識を持って厳密に管理する必要があります。

日本では以前より、胃がんは消化器科、肺がんは呼吸器科、子宮がんは婦人科というように臓器別で診療されてきました。しかし、日進月歩で進化し複雑化していく抗がん剤治療を適切に実践するためには抗がん剤治療の専門家が不可欠であるということで、2006年にがん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)という資格ができました。

がん薬物療法専門医

—抗がん剤治療の専門家—

がん薬物療法専門医はすべての臓器のがんに関する知識と、抗がん剤に関連する薬理学、緩和医療についての知識が必要です。また、がん治療はチーム医療です。内科・外科・放射線科・病理診断科・緩和ケア科・看護師・薬剤師・栄養士・MSW(メディカルソーシャルワーカー)・リハビリスタッフなど多くの職種でチームは構成されており、がん薬物療法専門医はがん治療の専門家としてリーダーシップをとり、がん治療のコーディネーターとしての役割を果たすことが求められています。

現在、がん薬物療法専門医は全国で1,060名、佐賀県内では11名が認定されています。がん薬物療法専門医はまだ不足しており、日本でも5,000名程度は必要だろうといわれています。全国の地域がん診療連携拠点病院のうち、半数はがん薬物療法専門医がまだ在籍していません。今後は、後進の指導にも力を入れていく必要があります。

がん治療はチームの総合力

私は、唐津赤十字病院初のがん薬物療法専門医として

唐津赤十字病院 呼吸器内科医
がん薬物療法専門医

梅口 仁美

プロフィール

profile

唐津市出身
唐津東高校 卒業
佐賀大学医学部 卒業
佐賀大学医学部大学院 修了
がん薬物療法専門医・呼吸器専門医
平成27年4月より唐津赤十字病院 呼吸器内科

赴任しました。普段は呼吸器内科医として呼吸器内科の診療を行っています。がん診療に関しては、がん化学療法看護認定看護師、薬剤師とともに各診療科の先生方と相談しながら抗がん剤治療レジメンの管理、各種マニュアルの見直しなどを行っています。

また、私も6月からキャンサーボードに加わりました。キャンサーボードとは、がんの患者さんについて様々な診療科の医師・看護師・薬剤師・MSWなど多職種で話し合うことです。たとえば、いくつものがんが同時に見つかった場合に何から優先して治療を行うのがよいだろうか、あるいは肝機能や腎機能が悪いので抗がん剤治療が可能だろうか、また抗がん剤の副作用の管理が難しい、痛みのコントロールが難しい、社会的な問題で今後の治療に悩んでいるなどのさまざまな状況に応じて、各専門家からの意見を聞きながら治療戦略を立てていきます。がん治療は決して医師ひとりではできないものではなく、チームとしての総合力です。当院には各分野のプロフェッショナルがたくさんいます。私はがん治療のコーディネーターとして患者さんに係わるプロフェッショナルの人の輪をつないでいくことが一番の仕事と考えています。

今後、さらに病院全体でよりよいがん治療を提供できるように努力していきます。



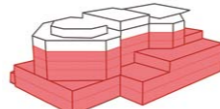
南西からの鳥瞰イメージ

新病院建設工事進捗報告



✦ 平成27年8月3日工事状況

5階床のコンクリート打設工事が完了しました。
6階床の配筋型枠工事も順調に進み、一部コンクリート打設にも着手しています。
付属棟では、エネルギー棟2階のサービスヤードへのスロープ工事に着手しました。
内部では1～3階フロアの
内装工事を行っています。

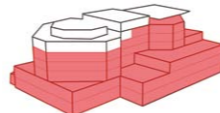


躯体工事エリアイメージ



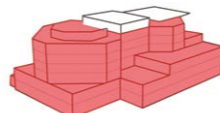
✦ 平成27年8月31日工事状況

6階床のコンクリート打設工事がほぼ完了。
工事進捗の早い東(写真奥)側から、7階床(中央部以外は6階が最上階のため屋上床)の配筋型枠工事を進めています。
また、8月より1～3階の外壁タイル張り工事を進めています。
躯体工事の進捗にあわせて
外装工事も仕上げていきます。



✦ 平成27年9月28日工事状況

7階床(中央部以外は屋上床)のコンクリート打設工事が9月末で完了しました。
本体躯体工事も、大きくは中央7階部分(機械室・エレベーターホール)およびヘリポートを残すのみとなりました。
付属棟(放射線治療棟・エネルギー棟)工事、および内装工事・外装工事も下階より順次仕上げの段階に進んでいます。



工事期間中、近隣住民の皆さまには大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

看護師のプロフェッショナル! 認定看護師 新たに2名取得

7月



がん化学療法看護認定看護師

古川 悦子



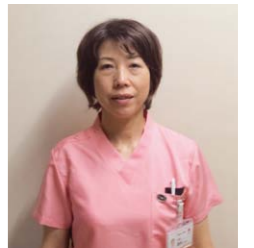
化学療法を受けているがん患者さんの副作用症状を少しでも軽減したいという思いがきっかけで、6カ月の研修を経て、がん化学療法看護認定看護師を取得しました。

がん患者さんが安全に安心して治療を継続できるように、確実な投与管理や副作用症状へのケアを行なっています。化学療法を受けながら、患者さんが自分らしい生活を送れるよう支えていきたいと思っています。よろしくお願いします。



糖尿病看護認定看護師

諸岡 智子



今年資格を取得することが出来、病棟で患者さんやご家族に対しての療養支援を行っています。糖尿病は合併症の多い疾患であり生活に様々な支障をきたしてきます。発症初期の方や合併症が悪化した状態で来られる方など、その時の身体や心理、社会面など患者さんの置かれている状況を把握し生活の中で取り入れていただける療養支援に取り組んでいきたいと思っています。

また現場に即した内容でスタッフへ糖尿病看護の指導が行える様に努力していきたいと考えています。

ACTIVITY REPORT



活動報告

2015年7月

新病院開院まで1年 移転プロジェクトチーム キック・オフ!!

7月

22(水)

新病院開院まで1年余りとなった7月22日(水)、いよいよ移転・引っ越しという一大プロジェクトが動き出しました。病院職員のほとんどがこれまで経験したことがないことから、皆がまさに「五里霧中」の心境。

会議では、まずチーム責任者である茨木副院長の檄から始まり、コンサルタントより、他病院での事例を参考にしたプロジェクトチームの業務内容について説明をしていただきました。

今後は基本的な移転スケジュールを決定した上で、各部門と協力しながら移転業務が本格化していくことになります。新しく生まれ変わる病院に向けて、これから1年間がんばります!



基本を、しっかりと 感染対策公開講演会

7月

24(金)

平成27年度第1回感染対策公開講演会を開催し、277名の参加がありました。

全職員が1回以上参加を義務付けられた研修会です。今年度、開催場所をメイン会場とサブ会場の2カ所で開催し、できるだけ多くの職員が参加できるようにしました。

今回、「感染制御 ～理想と現実の狭間で～」をテーマに当院の小児科医師であり院内感染対策の専門家である阿部医師が講演を行いました。標準予防策を中心に感染対策の基本である手指衛生について、どのタイミングで手指消毒をするのか、分かりやすく具体的に話をいただきました。全職員で手指衛生に力を入れて、感染対策に更に取り組んでいきます。



救急科

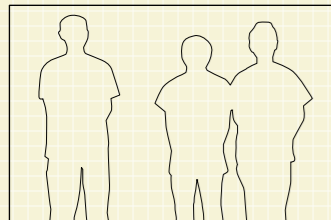
各科の紹介

■スタッフ紹介

中島 厚士 救急科部長
(平成11年卒/救急科)

藤田 亮 救急科副部長
(平成13年卒/救急、集中治療、泌尿器科)

吉武 邦将 医師
(平成22年卒/救急科)



中島 吉武 藤田



救急科の紹介

救急科は当院へ救急車で搬送された患者さんの初期対応を行っています。現場の救急隊からの連絡を受け、重症(多発)外傷や心肺停止状態、種々のショックや意識障害、心血管疾患、呼吸不全、脳血管障害、重症急性中毒、動物咬傷など多岐にわたる救急疾患への対応を各科専門の医師と連携を取りながら行っています。

主な疾患

- 重症(多発)外傷** 交通事故や高所からの墜落、階段からの転落、労働災害など受傷の原因は様々で、受傷時に加わった外力の程度や損傷部位によって、その病態は大きく異なります。頭部の外傷や胸腹部の臓器損傷、骨折病変など損傷の形態は多様で、部位が複数個所に及ぶことも多く、また外傷に伴う出血や全身の機能的変化に伴い、様々な合併症を伴うことも少なくありません。各科専門の医師と連携を取りながら全身状態の管理ならびに損傷部位に対する治療を行っています。
- 心肺停止**………心臓の動きと呼吸が止まった状態を言います。心臓マッサージや薬物治療、電気的除細動により再び心臓の動きや呼吸が再開する(蘇生)場合もあり、蘇生した場合には人工呼吸器管理や薬物点滴治療などにより全身状態の管理を行いながら、心肺停止に至った原因疾患に対する加療を行います。

みなさまへ

ある日突然襲ってくる病気や怪我は、たとえそれが軽症でも重症でも、患者さん本人だけでなくご家族にも大きな苦痛や不安を与えることと思います。そのような救急疾患を抱えた患者さんが安心して受診いただけるよう、当院各科のご協力をいただきながら緊急診療体制の充実を今後も目指してまいります。



✦診療実績

平成26年度 DATA
救急車受入件数 …… 2,097件



放射線技術課の紹介

放射線技術課では医師の指示の下、医師、看護師、臨床検査技師などと協力し、様々な機器を使用して診療に寄与する各種画像の提供、高エネルギー放射線による治療などを行っています。救急の患者さんに24時間対応できるように、夜間は当直技師1名と呼び出し技師1名の2名体制で緊急検査を行える体制を整えています。また、医用画像の管理、及び放射線の管理なども行っています。診断、治療の向上に貢献できるように研鑽を積んでいます。

主な検査内容

- 単純X線検査**…骨、胸、腹などのX線撮影検査です。
- マンモグラフィ**…乳腺X線撮影です。当院では女性技師2名で担当しています。
- X線透視検査**…胃、腸のバリウムなどを用いた検査、骨の整復などの検査です。
- X線CT検査**…全身の横断面の画像を元に多断面、3Dなどの画像を作成する検査です。
- MRI検査**………X線を使わず、磁力、電波を用いて全身の断面を撮影する検査です。
- 心臓カテーテル検査**…急性心筋梗塞などの心臓疾患の診断、治療をする検査です。
- 血管造影検査**…血管系疾患の診断、治療、肝臓がんなどの悪性新生物の治療を行います。
- 核医学検査**………微量の放射線を出す物質を体内に入れ、そこから放出される放射線を画像にする検査です。
- 高エネルギー放射線治療**…高エネルギーの放射線を用いて病変を治療するものです。

みなさまへ

近年、放射線を用いた検査の需要は多くなる傾向にあります。当院でもCT、MRIなどの予約が数週間先まで埋まっている状況で患者さんには大変ご迷惑をおかけしています。検査がスムーズに進むように検査予約時間には遅れないように来院していただければ幸いです。

核医学検査装置



各科の紹介

放射線技術課

■スタッフ紹介

平田 一英 放射線技術課長
(昭和58年卒)

坂井征一郎 放射線技術第1係長
(昭和59年卒)

江口 教久 放射線技術第2係長
(昭和62年卒)

牧原 靖司 診療放射線技師
(平成2年卒)

千綿 直也 診療放射線技師
(平成4年卒)

服部 重雄 診療放射線技師
(平成5年卒)

江頭 紀史 診療放射線技師
(平成17年卒)

槇 康児 診療放射線技師
(平成20年卒)

立川 圭彦 診療放射線技師
(平成22年卒)

池田 健人 診療放射線技師
(平成25年卒)

吉海ひかる 診療放射線技師
(平成26年卒)

三浦 有貴 診療放射線技師
(平成26年卒)

藤原 征司 放射線科助手

中山みのり 放射線科助手

✦業務実績

平成26年4月～平成27年3月	
一般撮影	33,241件
消化管透視	1,581件
CT検査	10,852件
MRI検査	4,253件
RI検査	552件
アンギオ	157件
心カテ	372件
放射線治療	3,779件
一般造影	22件
マンモグラフィ	925件
マンモトーム	9件
ポータブル	5,019件
手術室ポータブル	1,303件
治療計画CT	168件

各科紹介

07

各科紹介

06



がん医療推進センターからのお知らせ

平成27年度 地域がん診療連携拠点病院

第6回 唐津赤十字病院 市民公開講座

もし、その時が
近づいたなら...

入場
無料

事前申込
不要

とき 平成27年 **11月8日** 日 13:30~16:20 (開場/13:00)
ところ 唐津市高齢者ふれあい会館 **りふれ**
〒847-0861 佐賀県唐津市ニタ子3丁目155-4 tel. 0955-72-9611

司会：唐津赤十字病院 副院長 湯ノ谷誠二

症例提示

13:35~13:50

唐津赤十字病院
緩和ケア認定看護師

牧原りっ子

講演 I

13:50~14:20

ホスピスでの限界とこれからの展望

河畔病院 緩和ケア部長
唐津赤十字病院 非常勤医師

前里 喜一 先生



講演 II

14:20~14:50

大切な人と、居たいところで...

あおぞら胃腸科 院長

笠原健太郎 先生



休 息

15:00~16:00

特別講演 いのちを受けとめる町づくり~在宅ホスピスのススメ

このさかクリニック 院長

二ノ坂保喜 先生



パネルディスカッション

16:00~16:20

その他 在宅療養支援情報提供・肝炎相談・佐賀県赤十字事業紹介・がん地域連携バス紹介・がん患者会紹介

主催／唐津赤十字病院

後援／佐賀県、唐津市、玄海町、唐津東松浦医師会、伊万里・有田地区医師会、唐津東松浦歯科医師会、伊万里・有田地区歯科医師会、唐津東松浦薬剤師会、佐賀県病院薬剤師会、佐賀大学医学部附属病院、独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター、佐賀県医療センター好生館、NPO法人クレスサポート、ほほえみの会(唐津赤十字病院がん患者会)、佐賀新聞社、び〜ぶる放送、NHK佐賀放送局、サカテレビ、エフエム佐賀、NBCラジオ佐賀



唐津赤十字病院

日本赤十字社

〒847-8588 佐賀県唐津市ニタ子1-5-1 TEL.0955-72-5111

唐津赤十字病院

検索



【編集・発行】 唐津赤十字病院広報推進室
【表紙のひと】 臨床工学技術課のみなさん

❖ 編集後記

寝苦しい日々はすっかり過ぎ去り、空の雲や日差しにも秋らしさを感じられるようになりました。

この時期はさんまやさつまいもや栗など、味覚でも季節を感じる機会が増え、小さな秋らしさを感じては自然の豊かさに思いをはせる、「実りの秋」を実感する毎日です。

今号の「みらい」も充実した内容で皆様に病院の様子をありありとお伝えするべく、厳選した記事をふんだんに盛り込んでお送りしました。秋の夜長のお供に広報紙「みらい」はいかがでしょうか。

広報推進室 川内 かな子